

2019年度第2回理事会(定例)開催



FIVB バレーボールネーションズリーグ 2019 男女東京大会 @武蔵野の森総合スポーツプラザ
男子は、1勝2敗で通算2勝4敗。女子は、2勝1敗で通算7勝5敗。

2019年5月28日(火)に開催された2019年度第2回理事会(定例)の概要をお知らせします。

●第9期(2018年度)決算について

第9期(2018年度)決算について説明がなされ、賛否を諮り承認可決された。

【監査報告】

公益財団法人日本バレーボール協会の第9期(2018年4月1日～2019年3月31日)の業務及び財産の状況等について監査したところ、適正かつ公正に処理されており、その内容が事実であることを認める。また、理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められない。

【決算の説明】

第9期(2018年度)は当初、728百万円の赤字予算という苦しい状況で始まったが、215百万円の収益増と297百万円の費用減少により、512百万円の収支改善を図り、税引き後の最終損失は212百万円で当期の決算を終了することとなった。

収入予算に対する増加の主原因は収入増へのさまざまな取組みの結果、入場料以外のほとんどの項目で予算を上回る結果となったことである。一方で、バレーボールネーションズリーグ男女大会、女子世界選手権大会の入場料収益は予算に対して 81 百万円と下回ったが、日韓親善試合の開催で 53 百万円の収益を上げたことにより、赤字幅を縮小することができた。

支出予算に対しては全体として予算を 297 百万円下回った。ハイパフォーマンス、ビーチで予算を上回る支出が発生したが、国際大会での大幅な費用削減などもあり、全体として大幅な費用削減となった。

なお、公益認定基準の三要件(財務三基準:「①公益目的事業比率」、「②収支相償」、「③遊休財産額保有制限」)について現況の報告があり、「②収支相償」については現時点では基準を満たしていないが、その対応策について内閣府、監査法人と協議中であることが報告された。

【運用報告】

今年度の運用は昨年に引き続き好調だった。実現した運用利益は 1,417 万円と前年微増となった(利回り 2.1%)。2014 年度から運用を開始し、獲得した利益は合計で 50 百万円になる。

基本財産 229 百万円は 7~20 年の長期の社債で運用し 2.4%の利回りを確保した。

また、特定資産・余剰資金 444 百万円(期末の残高は 210 百万円)は 3 年以内の短期の社債で運用し 2.0%の利回りを確保した。

運用は、安全を第一としその中での運用向上を目指している。社債発行元自体の破綻の可能性も含めさまざまな角度からリスク分析し、銘柄選別をおこなっている。

●第 9 期(2018 年度)事業報告について

第 9 期(2018 年度の)事業報告について下記の通り説明があり、賛否を諮り承認可決された。

<事業の概況>

(1)男女日本代表チーム・各カテゴリーの主な戦績

シニア男子	第 18 回アジア競技大会 5 位
シニア女子	2018 女子バレーボール世界選手権 6 位
U-23 女子	AVC カップ 準優勝
ジュニア男子	第 19 回アジアジュニア選手権大会(U-20)13 位
ジュニア女子	第 19 回アジアジュニア選手権大会(U-19)優勝
ユース男子	第 12 回アジアユース選手権大会(U-18)優勝
ユース女子	第 12 回アジアユース選手権大会(U-17)優勝
ビーチ男子	ビーチバレーボール ワールドツアー2018 3 Star
高橋・石島ペア	17 位
ビーチ女子	ビーチバレーボール ワールドツアー2018 3 Star
石井・村上ペア	3 位

(2)今年のトピックス

- ① 第 18 回女子世界選手権を 8 年ぶりに横浜、札幌、神戸、浜松、名古屋、大阪各地で開催。日本を含む 24 カ国が世界一を競い、セルビアが初優勝を果たした。
- ② ビーチワールドツアー(3 star レベル)をお台場で開催した。
- ③ 従来のワールドリーグ(男子)、ワールドグランプリ(女子)を統合し、バレーボールネーションズリーグ(Volleyball Nations League – VNL)と改称して第 1 回 VNL を開催した。
- ④ 国際親善試合を十数年ぶりに船橋市で開催した。
- ⑤ 東京 2020 以後のスポーツ人気の後退傾向をふまえた 2024 年までの中期経営計画を策定した。

(3) 決算について

今年度は過去最悪の 728 百万円の赤字予算という苦しい状況の中、中期経営計画に基づき収入の増加、費用の削減に取り組んだ。収入面では入場料は予算に達しなかったが、その他の収入項目で増収となった。費用面では、大会経費の削減などに取り組んだ結果予算より大幅に削減できた。その結果、収入は予算を 214 百万円上回る 2,833 百万円となり、費用は予算より 297 百万円減少の 3,049 百万円となり、税引き後の最終損失は 212 百万円となった。

● 定時評議員会の開催及び目的事項について

定時評議員会の開催及び目的事項について、下記の通りに説明があり、賛否を諮り承認可決された。

2019 年度定時評議員会を次の日時に開催するものとし、その目的事項(議題)として、以下の決議事項 2 件、報告事項 2 件とすることを提案いたします。

1. 日 時: 2019 年 6 月 18 日(火)14:00~16:00
2. 場 所: 都内会議室
3. 決議事項:

(1) 第 9 期(2018 年度)計算書類等の承認の件

第 9 期 2018 年 4 月 1 日から 2019 年 3 月 31 日までの計算書類(貸借対照表、正味財産増減計算書、貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書、財産目録)の承認を受ける件

(2) 理事選任の件

任期満了に伴い、定款の定めによる 15 名以上 20 名以内選任の件

4. 報告事項

- (1) 第 9 期(2018 年度)事業報告の件
- (2) 理事の任期満了について

● 報告事項

(1) 2019 年度第 1 四半期職務執行報告

法令及び理事会運営規程に基づき、2019 年度第 1 四半期の職務執行報告が、嶋岡会長、八田専務理事、

及び業務執行理事、事業本部長・室長より行われた。

(2) 中期経営計画の進捗報告

中期経営計画の進捗報告について下記の通り説明があった。

中期経営計画を推進するために4月1日より新設された新部署の活動状況報告がされた。

・体罰・暴力・ハラスメント撲滅対策部

現在、部活動の実態調査準備を進めており、高体連・中体連の部長との意見交換も行き、アンケート調査項目が固まったため、7月に調査を実施予定で、9月には報告できるようにしたい。

・新規事業企画部

スポルテックにてVリーグとの共同ブースの出展を行い、約200名程度(推定)が来場され、スポーツ関連企業との情報交換を行った。

また、MRS(登録管理システム)については、システム価値向上が必要であり、会員カードの発行や情報提供の充実を検討している。日本バスケットボール協会ではスポンサー協力を得て、ゼビオグループでポイントカードとして利用できる登録証の発行と年3回の会報誌の発行をしており、JVAとしても導入出来ないか協議・検討中である。

・加盟団体連携部(兼 新規事業企画部)

春高バレー県大会のメディア展開とスポンサー獲得を検討している。全国大会については、マーケティング権の一切をフジテレビに委ね、大会告知・運営を行っている。県大会決勝については、大会運営は、都道府県協会が高体連の各県のバレーボール専門部と協力して行っているが、スポンサー獲得については、全国47都道府県の中で4・5県となっている。

昨年からはスポーツブル(インターネット配信業者)とフジテレビがタイアップして、準決勝までインターネットのライブ配信を行った。決勝についてはフジテレビ地上波で30分遅れの録画放送を行ったが、今年は県大会も含めて、スポーツブルでのインターネット生放送とフジテレビ系列局で録画放送をフジテレビが検討しているため、インターネットのライブ配信も活用したスポンサー獲得企画を展開していきたい。

(3) 東京2020に向けた強化報告について

東京2020に向けた強化報告について下記の通り説明があった。

1. 強化戦略プラン理念

○Vision(JVAが目指す、将来のある時点での状態)

オリンピックならびに国際大会において恒常的にメダル獲得すべく高い水準を目指す
(インドア男女はFIVBランキング8位以内/ビーチ男女は15位以内)

○Mission(JVAとして果たすべき役割・使命・存在意義)

国民的スポーツとしてバレーボール競技が包含するすべての事業においてさらなる価値の創出と向上をはかる

○Value(事業を推進するうえでの共通の価値観)

競技者・指導者・支援者がともにアスリート・セントリック(競技者中心主義)とプレイヤーズファースト・ウイ

ニングセカンドの概念を理解の上広く共有し、ひとつ上のステージに上がるよう強化を推進する

2. 東京オリンピック→パリオリンピック目標

【2020年東京五輪】

<インドア> 女子:3位以上 男子:4位以上
<ビーチ> 女子:3位以上 男子:8位以上

【2024年パリ五輪】

<インドア> 女子:1位 男子:3位以上
<ビーチ> 女子:3位と8位 男子:3位以上
(2チーム出場)

3. 東京2020対策プロジェクト

大会前からのスケジュールリング、独自練習会場の契約・確保、スタッフ他宿泊場所確保、大会シミュレーション(含テストイベント)、強化スタッフのチケット手配、オリンピックに関わる予算化等

4. パリオリンピック大会を見据えての強化

プロジェクトコア“2024パリ”を組織化し、2023年の世界選手権で、女子は4位以上、男子は8位以上を目標に強化を行う。

MPA(メダルポテンシャルアスリート)より7名を将来のシニア選手に育成する。情報・医科学の活用、育成方針の制定、スケジュールリング等

ビーチバレーボールのアジア選手権(中国開催 5/9~12)での対戦成績と今後の国内・国際大会予定についての説明があった。

中でも8月26日から28日に中国で開催されるコンチネンタルカップ、オリンピックアジア大陸予選第1フェーズ大会には日本代表チームが男女各3チーム派遣予定であり、1位もしくは2位を獲得できれば、次の第2フェーズ・第3フェーズ大会に進め、第3フェーズ大会の優勝チームが東京オリンピック出場権の獲得が出来る為、日本は開催国枠以外の出場枠の獲得を目指し、まずは、第1フェーズで2位以内を目指すことの説明があった。

以上

発行：公益財団法人日本バレーボール協会 発行人：事務局長 鍛冶 良則
電話：03-5786-2100 FAX:03-5786-2109 E-mail：generalaffairs@jva.or.jp